

明治学院大学横浜キャンパス
ヒストリーブック

YOKOHAMA CAMPUS HISTORY BOOK

Since 1985





明治学院校歌の一文より命名された「遠望橋」

明治学院校歌

人し世し若き生命しあさほらけ
 學院し鐘を響きてこれひとし鳴うつとが
 白金し止る根深く記念樹し立てるひんよや
 緑葉を香ひあわれし青春し思ひつとふ
 心せよまふひし友よ新しき時代を待て至
 るる世に遠く望みておのころ志し道は開かむ
 雲あらず雲は窮めむ壊あらず壊も活きむ
 あゝ行けたころへ雄々士のかれ
 眼さめよ起てよ果るるおのころ

島崎亨村



ごあいさつ

横浜キャンパスの歴史が一目でわかり、見ていて大変楽しい本が出来上がりました。

近隣の方々のご協力と学生・職員の知恵と努力が詰まったこの本は、キャンパスが造成される前やその時々
の写真と現在の写真を見比べることができ、目で見えてわかると同時に、適切な説明が付されています。

当時の状況がわかるだけでなく、時代の変化や学生の風俗、生活習慣まで透けて見え、横浜キャンパスの
歴史を越えて、現在に至る時代の動きまでも理解できる、とても便利な歴史書となっています。

歴史を理解することは、より良い未来を創造することにつながります。

この本を通して、是非、明治学院大学の未来も考えていただけることを願っております。

明治学院大学副学長 吉井淳

横浜キャンパスの流れ



明治学院大学横浜キャンパス開校



国際学部開設

1863年

J.C. ヘボンが横浜に
ヘボン塾を開設
(明治学院の起源)



1887年

明治学院が
白金に開校



白金キャンパスチャペル竣工当時

1985年

1986年



ヘボンフィールド
完成



10号館建設

8号館インターナショナル
ラウンジ完成



横浜キャンパス開校 30 周年!!



国際学部
国際キャリア学科
設置

横浜キャンパス
向上計画スタート

明治学院
創立 150 周年

2005年 2007年 2008年 2011年 2012年 2013年 2014年 2015年

横浜キャンパス開校 20 周年
都市計画道路開通



急行バス運行開始



戸塚区との連携協定締結



陽光ふりそそぐ「横浜キャンパス」 開校の歴史

明治学院大学の歴史的起源は1863（文久3）年、米国長老教会の宣教医師ヘボン夫妻（Mr. James & Mrs. Clara Hepburn）が横浜居留地の自宅で開設した、英学塾ヘボン塾となります。その後、築地居留地時代を経て、1887（明治20）年1月に東京府（現在の東京都）から私立明治学院の設置が認可され、現在の白金校地（東京・白金台）にキャンパスを開設し、多くのキリスト教伝道者を養成。島崎藤村に代表される文学者や、賀川豊彦をはじめ社会的良識をもつ人材を世に送り出し、白金の地で歴史を刻んできました。



1977(昭和52)年12月当時



1983(昭和58)年11月着工当初

1970年代に入ると、世界的な高度成長の時代が終わりを告げ、物質的な豊かさから、心の豊かさを求める時代になり、高等教育の大衆化が深まったことから大学進学率が増加しました。本学においても、学生数が増加し、白金キャンパス内の過密状態を緩和させる必要が生じました。また、社会は多様化し、20世紀末における日本をめぐる国際情勢から新たな人材の育成が必要となりつつありました。

本学は、1970年代後半から、白金校地を拡張するとともに、学生がいきいきと豊かに学べる環境作りと未来への新たな人材育成を望み、開設の歴史的起源であり、新しい時代の要請にふさわしい「横浜」の地に、この横浜キャンパスを開校する

こととなりました。

横浜キャンパス開校の具体的な計画は、1978年12月、当時の平出宣道学院長の「本学の現状を分析して長期的展望のなかで問題を解決しよう」という呼びかけから始まりました。

1・2年次生の新キャンパス移転や国際学部の新設などの計画が決定し、校地の入手と造成、さらに新校舎建設が進みました。

キャンパスは、プロテスタント（キリスト教・カルヴァン派）の教義である「シンプルと清廉」をコンセプトとしたデザインに決定しました。学生一人ひとりが、天の恵みである自然と共鳴した空間の中で、キリスト教精神を根底に、フロンティア精神をもち続け、国際的な人材として育てていくことを願い設計

されました。キャンパス内においては各施設の機能を充実させ、教育・研究活動を中心に豊かな学生生活を営めるような都市的空間を目指すとともに、敷地周囲に対する良好な景観を図り、自然と大学との共存が図られました。

造成工事は1982年5月に始まり、全18棟の校舎群の完成とともに、付帯施設と教室内の最新の機器、備品が設置されました。

そして1985年3月、多くの方々の祈りと支援、協力によって、明治学院大学横浜キャンパスが完成し、新しい研究と教育の場が息吹を上げました。

1988(昭和63)年12月



空中写真：国土地理院撮影の
空中写真を掲載



建物は明るくダイナミックに丘の上に

チャペルの尖塔は青空に向かって高く聳え、
澄み切った鐘の音はこの丘を越え遠くまで伝わっていき……。

大空の下に広がるこの地は、学院の創設者であるヘボン博士が
初めて日本の地を訪れた横浜につながる所に位置しています。

奥行の長い敷地形状を活かすためにさまざまな機能をもつ施設



を、その性格ごとにいくつかグルーピングし、各々の中心に広場を形成するように適当な距離を保ちながら建物を配置しています。このグループをシステムチックに散開させ、キャンパスモールドで貫抜くことで互いを有機的に関連づけようという意図のもと、建設が進められました。

変化のある空間は、通路となり、休憩の時を与えています。各建物の目的を素直に表現するシンプルな構造体、内部と外部を開放的に接続するピロティ、建物群を効果的につなぐモールなどが、まるでプロムナードのように歩を誘ってくれます。



文部省認定初の「国際学部」の開学

横浜キャンパス開校の翌年であり国際平和年でもある1986年、地球的な視野での世界平和を目指す国際人の育成を願い、本学に文部省（現・文部科学省）認定初の「国際学部」が誕生しました。当時、政治、経済を中心にして国際関係を学ぶ「国際関係学部」や「国際政治経済学部」は世の中に存在していましたが、本学では、国際関係の学びに多様な異文化に対する認知と尊重を基盤に据え、比較文化・比較政治・比較経済という柱に、異なる文化・政治・経済などを総合的に切る方法論として地域研究が置かれました。地球的な視野での世界平和を目指す国際人の育成を願い「国際学部・国際学科」と名付けられました。



真新しい国際学部棟での献堂式

国際学部の教育目標である「現代のグローバル社会の諸相を理解し、世界の平和と福祉に貢献する人材の育成のためには、現実には生じている複合的な問題を整理し、その解決策を探るだけではなく、世界の他の国の人々と直接コミュニケーションし、共同で作業を行うという経験が必要です。

本学部では全学生が在学中にこれらの国際的な経験を積むことができるように配慮しています。2011年度には国際学科に加えて、国際キャリア学科を新設しました。世界各国の学生が集う国際的環境のもと、英語をベースとする高度な異文化コミュニケーション能力や、現代社会を正しく理解するための学際的アプローチの視点、そしてさまざまな問題解決に主体的に参加、貢献できる実践的能力を養成しています。



国際学科授業風景



国際キャリア学科授業風景

専門教育の根底を支える 「教養教育センター」の発足

1991 年、大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）の大綱化政策が実施され、一般教育科目・専門教育科目などの科目区分規定の削除や、分野ごとの科目必修制の廃止など、学士の課程（学部など）の教育が各大学の裁量にゆだねられました。そのことを受け、大学の多くが、大学での学びを専門教育のみへと変えてゆきました。しかし本学は、教養教育の内実を拡大し、教養課程（4 年間の前半の 2 年間）だけではなく学士課程を含む 4 年間、専門教育と並行して教養教育を行うという決断をしました。

そして 2002 年（平成 14 年）、ヘボン博士が礎を築いた時代からの普通教育（教養教育）を教育基盤とする伝統を継

承し、その上に現代的な教養教育のあり方を研究実施する学部に準じた機関として「教養教育センター」が発足されました。

教養教育センターでは、明治学院共通科目の運営を行っています。この共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる人材の育成を目標としています。そしてその実現のために、外国語教育と諸領域科目の教育が連携し、確かな思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進しています。

また、共通科目の運営だけでなく、課外活動を通しても学生の成長に寄与しています。

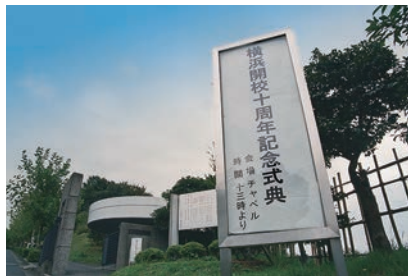
リーダーシップを発揮することを目的のひとつとし、次年度入学する系列校の高校生を対象とした入学前教育「J.C. パラ・プログラム」もその一例です。このプログラムでは在学生在が自らレクチャーやキャンパスツアーを担当することで、高校生のみならず在学生のリーダーシップの育成も促しています。また、外国語教育の面では、「ランゲージ・ラウンジ」を設け、自律的な学習習慣の定着を目的として、個別相談や各種講座、教員や留学生と気軽に会話できる環境をキャンパス内で展開しています。



J・C・パラ・プログラム
本学学生が、次年度に入学する系列校高校生に
レクチャーをしている様子



授業風景



開校 10 周年記念行事

「大学と社会—社会に開かれた大学とは」のテーマのもと、1995 年秋から 1996 年秋までの 1 年間を「開校 10 周年記念」として、3 度にわたるイベントが開催されました。

1995 年 10 月には、大江健三郎氏の講演会をはじめとする学術的な企画や学生主体の“おまつり”のようなイベント、進学相談会や模擬授業が行われ、約 2000 人が横浜キャンパスに集い、大いに賑わいました。

翌年の 1996 年 5 月には、「地域と大学の交流を目指して」というサブテーマのもと、学生団体や市民団体の協力によりキャンパス内で各種企画が催され、3000 人以上の地域住民で賑わいました。

そして、1996 年 10 月に行われた第 3 回目のイベント「国際学部創設 10 周年記念」をもって、記念事業は終了しました。





開校 20 周年記念行事

開校 20 周年の折には、横浜キャンパスにて記念式典、シンポジウム、記念祝賀会が行われました。

神奈川県活性化事業に関する講演会・パネルディスカッションと、故・筑紫哲也氏を招いての講演会は好評を博しました。

明治学院大学 横浜キャンパス開校20周年



1863年、明治学院の創始者ヘボン博士が横浜の地に開いたヘボン塾が明治学院の歴史の源流です。それから122年後の1985年、明治学院大学は生母郷の横浜に、横浜キャンパスを開校しました。今年で開校20周年を迎えます。地域の皆様方のご理解とご協力に支えられ、年月を重ねることができました。この度、横浜キャンパス開校20周年を記念してシンポジウムを開催いたします。皆様のご来場をお待ちしています。

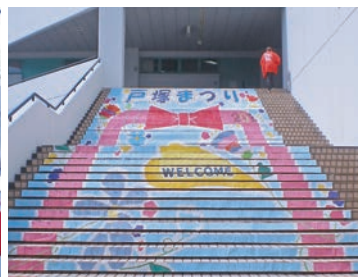


横浜キャンパス開校20周年記念 シンポジウム

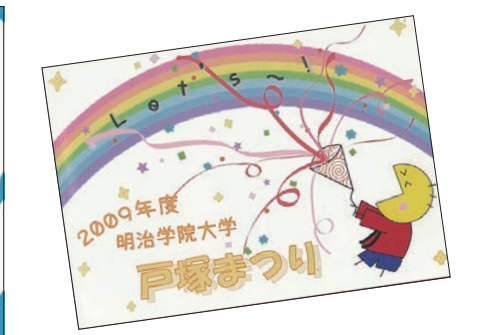
- 開催日時 2005年6月4日(土) 14:00～15:30
- 会場 明治学院大学 横浜キャンパス 530教室(横浜市戸塚区上倉田町1518)
- プログラム 「行政とNPO・ボランティアの協働に向けて——松沢知事とともに考える——」
- 基調講演 松沢 成文(神奈川県知事)
- パネルディスカッション
松沢 成文(神奈川県知事) 山崎 美貴子(神奈川県立保健福祉大学学部長・本学名誉教授)
南宮 孝子(本学法科大学院教授) 川上 和久(本学法学部長・コーディネーター)
- ※入場は無料です。 ※お車 でのご来場はご遠慮ください。
- ※2005年度「戸塚まつり」(6月4日～5日)と同時開催しています。
- 問い合わせ先 TEL 045-563-2007 明治学院大学 庶務課

開校 10 周年の際に実施された“おまつり”イベントの影響を受けた学生たちが主導となり、1998 年、横浜キャンパスの「地域に根差す」という特色を活かしたコミュニティフェスティバルが誕生しました。

地域と学生・教職員が一体となり楽しめるようにと始まったこの取り組みも、2015 年で 18 回目を迎えました。地域交流を根底に、環境問題・国際交流・福祉など、楽しみながら“気づき”を得ることが出来るような企画が毎年開催され、近隣の方だけでなく遠方の方にも足を運んでいただけるようになりました。



環境問題への取り組みのひとつ、DRP(Dish Return Project)。模擬店で買った料理の食器を洗って返すことで、使い捨て容器の削減と、環境問題への意識付けを図ります。



体育祭

1990年代のはじめまでは、白金祭の期間に横浜キャンパスのグラウンドにて体育祭が開催されていました。



2013年、創立150周年横浜キャンパス記念企画として、江ノ電ラッピングバスとエコキャンパスうちわのデザインコンテストが開催されました。



最優秀作品とデザインを行った学生

150周年を記念してラッピングバスが横浜市内を走行



150周年記念ランチ

150周年記念ランチの選考風景



MGチーズステーキボウル



MGチーズカレー

創設者へボン博士の故郷の味を、明治学院生協・生協学生委員会・横浜管理部が共同開発し、150円で提供しました。売り上げの一部は、ボランティアセンターの東日本大震災復興支援活動への寄付金としておぐられました。



2013 年 10 月 本学と戸塚区との間で連携協力に関する基本協定を締結。同区のマスコット『ウナシー』が贈呈されました。



葛西光春前区長

梶殿博喜学長

2012 年より、競技感覚でゴミ拾いを行う「スポーツ GOMI 拾い」の大会を実施。地域の方と大学がそれぞれチームを組んで、競い合いながらキャンパス周辺のゴミ拾いを行っています。





無農薬米づくりを作業体験。ピザ作りも体験し、おいしくいただきました。

1 Day for Others

「1 Day for Others」は、学生がキャンパスを1日飛び出して、社会へ貢献し、学びを深めるボランティアセンター主催のイベントです。



「ボランティアをする」とはどういうことなのかを考えるきっかけとなりました。



とつが宿場まつりでは、地域の運営委員や区役所の方々と協力し、企画・運営を行いました。

地域活動

ボランティアセンター所属の地域活動セッションの学生メンバーのよびかけにより、多くの学生が地域活動に積極的に参加しています。



地域スポーツ支援事業のスポーツ・レクリエーション・フェスティバルでは、運営の補助と、参加したこともたちと交流しました。

開校から20年間、現在の南門行きバスは開通していませんでした。
学生は小田急団地循環バス（江ノ電バス）にて北門で下車するか、タクシーに分乗して登下校していました。



南門まで通じる都市計画道路の完成により、2005 年 11 月 12 日、現在の南門行バスが開通。学生の通学の便が大きく変わりました。

さらに 2012 年より帰りの便に、戸塚駅直行の急行バス運行が開始されました。



南門バスルートが完成していなかった当時は、バスは北門そばの小田急分譲地循環ルートを利用していました。そのため、グラウンド（現ヘボンフィールド）にはバスの時刻表の看板が設置されていました。

徒歩通学の学生に対するマナー注意看板が、2013 年よりキャンパス内に設置されています。看板は、学生がデザインしたものです。



開校当時はキャンパス内の樹木もまだ成長していませんでした。また都市計画道路が開通した際には、正門周辺には店舗も看板もありませんでした。

1985年当時(開校当初)・A館周辺



2005年頃・正門周辺



食堂からの景色

開校当初と比べ、木々が生い茂りました。

広場にあったモニュメントは移動し、この場所で学生たちが発表を行ったり、イベントを開催することもあります。

1985年当時(開校当初)



2013年



1985年頃



2006年頃



開校当時は土のグラウンドで、スタンドもありませんでした。毎年白金祭の時期には、このグラウンドで体育祭が行われていました。

その後、芝のグラウンドへと変わり、2007年に全天候型トラックと人工芝を備えたグラウンドへとリニューアルされ、「ヘボンフィールド」へと生まれ変わりました。

2008年には観戦用ベンチが増設され、2012年には電光掲示板が設置されました。



開校当時はタイルだった休憩スペースの床は、近年はウッドデッキに整備されました。広場にあったベンチや灰皿、ゴミ箱は撤去され、テーブルと椅子が新調されました。昔も今も変

わらずに、広場は学生の休憩スペースとなっています。キャンパスのいたるところに設置されていた公衆電話も、近年では数少なくなっています。



1990年頃と近年では、建物自体には大きな変化は見られませんが、髪型やファッションから時代の流れを感じることができます。食堂での喫煙も、今では禁止されています。授業

期間中、毎日お昼時になると、食堂は多くの学生で賑わいを見せています。

1990年頃



2013年



2011年にインターナショナルラウンジと改称し、リニューアルされた8号館1階。それ以前は、主に国際学部の学生が利用するスペースでした。

窓ガラスと照明、テーブルと椅子の新調によって明るく生ま

れ変わったラウンジは、学部に関係なく多くの学生の交流の場として利用されています。

また、このラウンジでは講座やイベントが開催されることもあります。



春には、新入生をクラブ・サークルへ勧誘する学生たちで溢れ返ります。この情景は毎年変わりありません。ただ、奥

に見える木々の成長から、時間の経過を感じることができます。
また遠望橋は 2011 年に耐震補強工事を行いました。

1990年頃



2010年頃

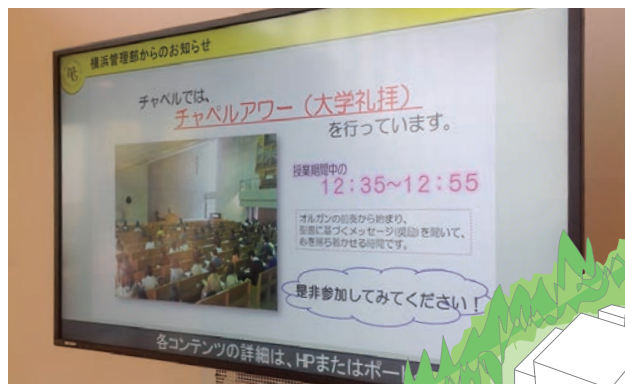


横浜キャンパスでは、学生のアメニティ（快適環境）の向上を主目的とした「横浜キャンパス向上計画」を2013年度から3カ年に渡り実施しました。



太陽光パネルと中水利用

自律型エネルギー確保のため、2013年度から3カ年計画にて太陽光パネル・蓄電池設備を設置しました（C館、E館、G館）。合わせて、雨水と井戸水を混合させ、トイレ用水として利用する装置も設置しました。



デジタルサイネージ

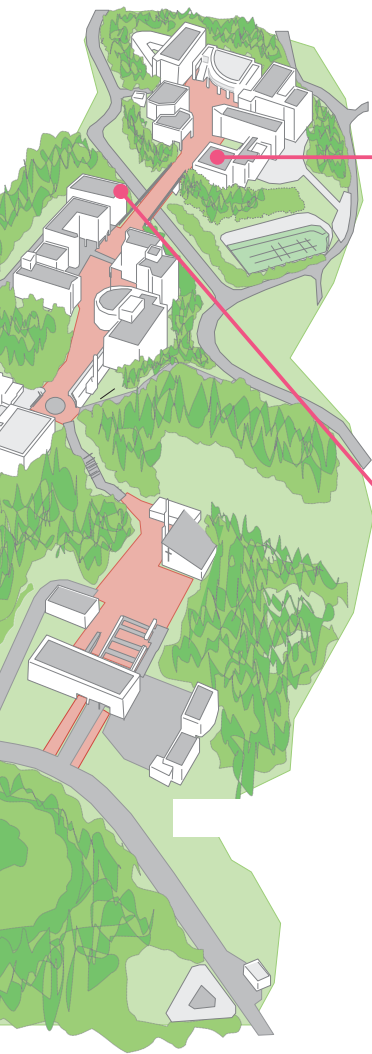
学生への情報発信ツールとしてデジタルサイネージ（電子看板）をキャンパス内7カ所に設置しました。

※設置場所：1号館、6号館、
インターナショナルラウンジ、
10号館（国際センターコモンズ）、C館（食堂）、図書館、
5号館（クララ・ラウンジ）



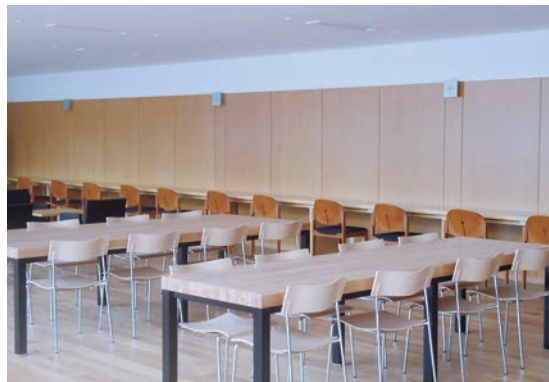
福祉車両





クララ・ラウンジ(5号館)

学生の憩いと交流の場として 2015 年にオープンしました。友人との語らいや、自学自習の場として利用されています。「クララ・ラウンジ」の愛称は本学創設者ヘボンの妻、クララに由来し、学内公募のうでで決定しました。



国際センター コモンズ(10号館)

国際交流の用途に用いるスペースとして、2015 年 9 月に改修しました。イベントの開催や国際交流活動に協力する学生同士の交流の場として親しまれています。



2015年3月、横浜キャンパス図書館がリニューアルオープンしました。

従来の一人ひとりが集中して学習するエリアに加え、学生同士が共に刺激し、学びあえるエリアとして「アクティブ・commons」エリアも新たに設けました。

コンセプトは「さあ 世界の窓を開けよう。使い方は無限大」です。



学生が「学びやすく」「安心して過ごしやすい」キャンパスを目指し、学生と職員による「横浜キャンパスプロジェクト」を2014年度より発足させ、それぞれのプロジェクト活動を行っています。

水曜0限プロジェクト

水曜日の0限目、つまり1限目の授業開始前の時間帯に、学部・学科・学年の垣根を越えたメンバーが集まり、学生間交流の必要性を新入生に伝えるための企画を立案し、実施しています。



キャンパスコンシェルジュ

横浜キャンパスでは、学生が学生をサポートするピア・サポートとして、「キャンパスコンシェルジュ」制度を実施しています。4月の新入生サポートやIT施設の利用時などの質問について対応しています。



飲食環境の充実

学生が食への関心を高められるように、トルコ料理などの移動キッチンカーでの販売や、食堂で実際に提供するレシピコンテストの開催など、飲食環境の充実に取り組んでいます。



ヤギを活用した除草

横浜キャンパスは、豊かな自然に囲まれています。この自然を守る「エコキャンパス」の取り組みとして、ヤギによる除草を2014年より開始しています。ヤギによる除草は、環境負荷がなく、廃棄物も生じません。また糞が土壌を豊かにするというメリットも生まれます。ヤギたちは、キャンパス内の除草のみならず、学生や教職員の癒しの存在ともなっています。



コンピュータ

開校時に設置されていた「汎用機」と呼ばれる大型コンピュータは時代とともに軽量・スリムなデザインに形を変え、より多くの学生が使用できるようになりました。

「Y'ins (Yokohama information network space)」の愛称で利用されている4号館1階のコンピュータ実習室は2002年に開設されたものです。

1985年頃



2004年



1985年頃



2013年「Y'ins」



クリスマスツリー

ツリーの木はすすくと育ち、開校当時から20年間で別物のように became. 電飾の色も変わりましたが、現在でも寒い季節に彩りを添えています。本学では11月下旬に開催されるツリー点灯式を期に、キャンパス内各所でクリスマスツリーの装飾が行われます。



日々の歩みとともに、豊かな緑と自然がキャンパスに集う人々を迎えています。

晴れた冬の朝、キャンパス内の「遠望橋」からは富士山を見ることができる



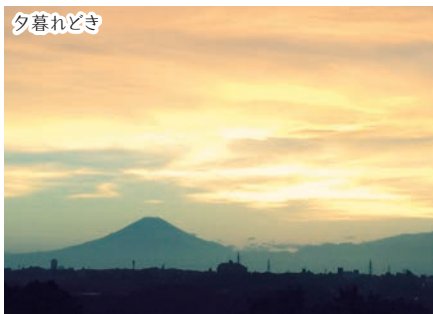
春のチャペル



春になると、キャンパス内では新入生を迎えるようにきれいな桜が咲き始める



夕暮れどき



夏のチャペル



平和の尊さを伝えるアンネのバラ



ヘボン像



150周年を迎えた2014年2月の大雪



秋の紅葉



この冊子は、大学発行の書籍・WEB ページを参考に制作しております。

主な参考文献

『横浜校舎開校記念誌』

『横浜校舎開校までのあゆみ』

『横浜開校 10 周年記念誌』

『明治学院の現況』

『創立 110 周年記念誌』

『白金通信』

明治学院大学 横浜キャンパス ヒストリーブック(第二版)

発行日／2015年12月19日

発行・制作・編集／横浜キャンパスヒストリーブック制作委員会

〒224-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

制作協力／一般財団法人キリスト教視聴覚センター

印刷・製本／株式会社平河工業社

デザイン／JCユニット

写真提供／株式会社スタジオワタリ

本冊子の一部または全部を無断で複製、販売、ネットワークにより転送することを禁じます。